

木田市長の

どろんどろんと  
コミュニケーション



## 小笠原の青い海

Vol.91

2年ほど前から、友人である森下小笠原村長より「もともとしきよのよい7月に是非小笠原に来るように」と言われていました。森下村長は鳥羽へ来ていただいたこともあり「選挙の終わった次の7月に…」ということで決断して行ってきました。

小笠原は世界自然遺産に登録された島々で、東京都に属するとは言え、東京より南へ約一千キロ、360度海に囲まれた孤島です。日本の国自体が列島ではありませんが、普段私達は離島に住む人達以外「海に囲まれた陸地」に住んでいることは意識しません。しかし小笠原の人々は、常に海によって遮られ、あるいは守られていると言えらると思えますし、常に海を意識せざるを得ないと思います。小笠原の中心である父島と母島を行き来する時は「はじま丸」に、日本本土や外国へ行くこととする時は、「おがさわら丸」に乗るとするのが唯一の手段と言っても過言ではありません。飛行場がないため、みんなこの週一便のおがさわら丸を利用するわけですが、東京へは片道25時間30分を要します。ちよつとやさそつとでは島を出られないわけです。

小笠原の第一印象は、「こんな色の海は見たことがない」というものでした。まるで青いインクを流したと思われるような色で、場所や海の深さによって、その濃い青からとてもきれいな水色に、そしてエメラルドグリーンや緑色に変化します。青い色の水を手ですくい取っても、青い水でなく透明な水であることが不思議なほどの青さでした。また、緑色の海に浮かんで海底をのぞくと、やっぱり緑ではなく透明な水で、そこには珊瑚や熱帯魚のような色とりどりの魚たちの楽園が広がっていました。

驚いたことに、この孤島では人口が増え続けています。島民は現在2800人余、高齢人口割合は、鳥羽市が約31%ですが、小笠原では約9%ということ、老人は見かけることが少なく、若者や子供達ばかりという状態です。水がきれいで自然が豊か、ごみも一切落ちていません。きれいな空気と潮騒、そして涼しい海風に囲まれた、このような孤島で一生を過ごす人もあります。しかし反面、不便さに入り、医療の心配がない都会。しかし、騒音とヒートアイランド、振り込め詐欺や犯罪のある都会。この地球上の、どのような所で人生を送るのが幸せなのか、ということを考えさせられる旅ではありません。小笠原の島々が、未来永劫きれいなままであってほしいと願っています。

## 山下憲一の

## 東京奮闘記!

Vol.7



市では、昨年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のPRを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室 ☎ (25)1101

## トバナイト

東京でも暑い日々が続いています。日中歩いていると空から直射日光、地面やそびえ立つビルからの照り返しと、四方八方から熱を感じます。暑さに負けず7月20日には、日々の業務と平行して、鳥羽のPRイベントを自主開催しました。題して「トバナイトー飛ぶなら今でしょ!」。これまでに私が東京で出会ったかたたちの中から、鳥羽に訪れたことがないかたを中心に、社会人から学生まで約20人のかたにお越しいただきました。

鳥羽から直送されたアワビ、サザエ、サワラやスズキなど



の新鮮な魚介類を居酒屋で調理してもらい、鳥羽の旬を味わっていただきました。また、答志町の寝屋子制度など独特の文化、風習などコアな鳥羽の情報を交えて、観光PRを行いました。

旬の食材を使っているので、料理が絶賛されたのはもちろんのことですが、多くのかたが興味を持ってくれたのが、今、旬の「海女」でした。テレビ番組で本市のキャンペーンガールである三世代海女の中川さん親子を見て、より鳥羽に興味を沸かしたと話してくれたかたもみえました。

東京で鳥羽をネタに、食べ、飲み、話し、楽しい時間を過ごし、「鳥羽へ行くこう!」を合い言葉にイベントを終りました。小さなイベントでしたが、地道に継続して開催し、鳥羽をPRするとともに、交流の輪を広げていきます。